

安保法案 自衛官の胸中思う

無職

(京都府 67)

他国軍支援のために自衛隊を派遣できる安保関連法案で、抑止力が高まり攻撃されるリスクが減ると安倍政権は言う。多くの憲法学者が違憲だと指摘し、世論の大半が異議を唱える法案を、自衛官はどんな思いで見ているだろう。

私は1992年、カンボジアで初めて自衛隊が国連平和維持活動(PKO)に参加した際、京都で市民グループ「自衛官人権ホットライン」開設に加わった。自衛官や家族の思いを受けとめる社会的窓口が必要だと考えたからだ。政治的な立場を超えて、寄せられる

声に耳を傾け、記者会見を通じて社会に届けた。PKOに派遣される自衛官の、苦悩し揺れ動く胸の内じかに接した。もし部下が撃たれて亡くなったら遺族に何と言えはいいのか、政治家はまず自分の子どもを出して……。

法案が成立すれば自衛官は集団的自衛権に基づく新たな任務に直面する。それは入隊時の約束にはなかったものだ。アフガニスタンでは後方支援のドイツ軍に55人も犠牲者が出た。後方支援も戦争だという現実だ。日本は戦争をしない国として国際社会を歩んできた。その70年の歴史を破ることが本心に賢明な選択なのだろうか。

武藤さん 戦争に行きますか

会社員

(大阪府 38)

自民党の武藤貴也衆院議員が、安全保障関連法案に反対する学生を集めて「SEALDs」に対し、「彼ら彼女らの主張は戦争に行きたくないという自分中心、利己的な考え。戦後教育のせいだろう」という趣旨をツイッターに投稿。残念で憤りさえ感じます。

あなたは戦争に行きたいのですか。私は行きたくありません。ましてや米国のために我が国の存立を脅かさない他国への戦争に加担するなど考えられません。同じ言葉を先の大戦の戦死者や遺族に言えますか。戦死した彼らの本心は

戦争に行きたくな〜、ましてや戦死したくなかったはずですよ。その様な犠牲者を出してはならないとの思いがあればこそ、70年平和を保ってきたのではないのですか。

私は38歳、あなたは36歳。同じ戦後教育を受けてきた世代です。戦後教育を非難するならば、近現代史が授業の日程の都合で端折られてきたことを非難すべきです。

あなたには戦前、身の危険を顧みず軍部を批判した「反軍演説」の斎藤隆夫、「割腹問答」の浜田國松になつてもうりたい。もちろん両議員のごとは存じでしよう。万が一知らないのであれば、それぞれ戦後教育の問題点です。

8/5 朝日

「お国の礎」ではない 子の命

主婦

(兵庫県 28)

安保関連法案に反対する学生たちが、「戦争に行きたくない」という自分中心で極端な利己的考えだ、ツイッターで非難した自民党の武藤貴也議員。まるで戦時下の国民精神総動員をほじくつとさせる発言に、子を待つ親として腸が煮えくり返る思いだ。

む。そして子の健やかな成長と幸せな未来を思い、自らの命に代えてでも大切な命を守り育むのだ。それなのに今、戦争には行きたくない、人を殺すのも殺されるのも嫌だ、と訴える若者を、与党議員が利己的だと断罪する日本になつてしまった。国防や国益は、国民の命や自由、それを保障する憲法よりも尊いというのだろうか。

この春、私は母親となつた。十月十日、気をつけて気をつけて大きなおなかを守り、悪阻や心身の不調にも耐え、筆舌に尽くし難い陣痛を経て、新たな命を産み落とした。母親は皆さうして命がけで新たな命を産

私は「お国の礎」ではなく、愛し愛される人生を祈りを込めて、この子を産んだ。傍らで寝息を立てる子の安らかな寝顔の方が、国民の命を軽んじる「お国」より私にははるかに尊い。